

# Research

2019 . 4th

## 特集 学びの場としての授業実践

### 第1講 皆川雅樹の授業探訪③

「主体性」を育む〈日本史B〉の授業

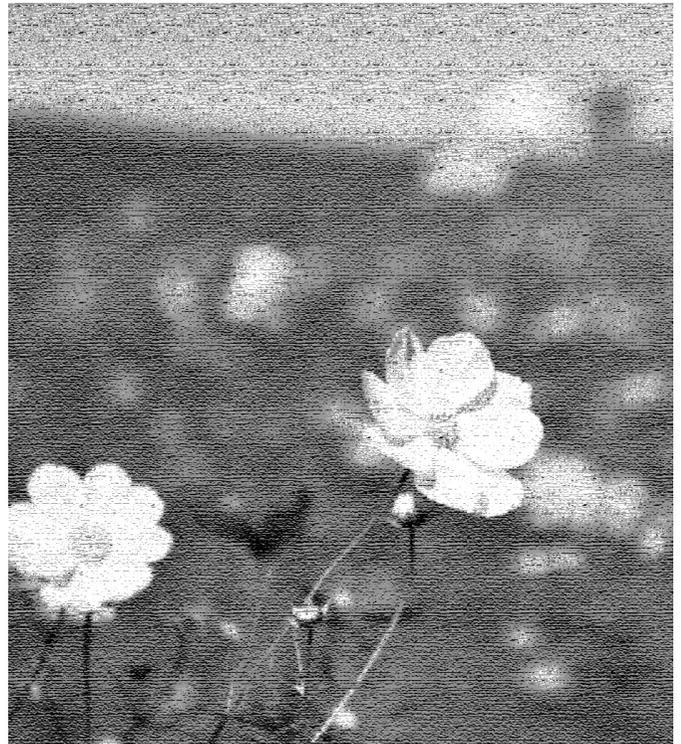
～発問・質問・問いが学びをうながす～

皆川 雅樹

### 第2講 「正解」でなく「納得解」を得させる

公民科の授業 ～人間としての強みを育むために～

高橋 勝也



## 清水書院

本社

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-6

営業部 TEL 03-5213-7151

FAX 03-5213-7160

編集部 TEL 03-5213-7155～6

大阪支社 / 札幌営業所

URL <http://www.shimizushoin.co.jp>

## 【特集】学びの場としての授業実践

### 第1講

#### 皆川雅樹の授業探訪③

# 「主体性」を育む 〈日本史 B〉の授業

～発問・質問・問いが学びをうながす～

京華中学・高等学校（東京・私立）

〈日本史 B〉の授業

担当教員：西村 博樹 先生

※2019年9月に取材

#### ◆取材者プロフィール

皆川 雅樹（みながわ まさき）

産業能率大学経営学部准教授。博士（歴史学）。専修大学兼任講師（教職課程）。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭（地理歴史科）。アクティブラーニングを意識し、ファシリテーション、KP法などを駆使して、授業などの学びの場づくりに取り組む。多くの教育系メディアで実践が紹介され、講演・研修講師を全国で務めている。著書『日本古代王権と唐物交易』（単著、吉川弘文館）、『アクティブラーニングに導くKP法実践』（川嶋直との共編著、みくに出版）など。  
@ご感想・ご意見などは下記メールアドレスにお願いします。

MINAGAWA\_Masaki@hj.sanno.ac.jp

## 0. 授業探訪の目的と目標

第3回目の授業探訪。これまで〈現代社会〉〈世界史B〉の授業を取材させていただいた。3回目の今回は〈日本史B〉の授業を探訪した。

### ＜授業探訪の目的＞

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

### ＜授業探訪の目標＞

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

## 1. 今回の授業探訪先の授業構成

第3回目の授業訪問先は、東京都文京区にある京華中学・高等学校（全日制）の〈日本史B〉（以下、科目としての日本史Bなどには〈 〉を付す）の授業である。〈日本史B〉は、高校1～3年生の授業科目として設定されている。

同校の地歴・公民科目の内訳は、次の通りである。

中学1年：地理（4単位）

中学2年：歴史（4単位）

中学3年：公民（4単位）

高校1年：

【S特進】 世界史A（2単位）、地理A（2単位）

【特進】 世界史A（2単位）、地理A（2単位）

【進学】 世界史A（2単位）、日本史A（2単位）

高校2年：

文系

【S特進】 現代社会（2単位）、世界史B・日本史B（4単位）より 1科目を選択

【特進】【進学】 現代社会（3単位）、世界史B・日本史B（4単位）より 1科目を選択

理系

【S特進】【特進】【進学】 現代社会（2単位）

高校3年：

文系

【S特進】 世界史B・日本史B（4単位）より  
1科目選択、  
社会演習Ⅰ（2単位）、社会演習Ⅱ（2単位）  
※社会演習は地理か政治経済を選択

【特進】 世界史B・日本史B・政治経済（4単位）  
から1科目選択  
世界史演習・日本史演習（4単位）と  
政治経済演習（4単位）から1科目選択

【進学】 世界史B・日本史B・政治経済（4単位）  
から1科目選択  
世界史演習・日本史演習・  
政治経済演習（4単位）から1科目選択

理系

【S特進】 社会演習Ⅰ（2単位）と  
社会演習Ⅱ（2単位）から1科目選択  
※社会演習は地理か政治経済を選択

【特進】 センター公民演習（2単位）  
※【 】内はコース

今回取材させていただいた西村博樹先生（【写真①】）が担当するのは、2年生・3年生の〈日本史B〉であり、高3S特進コース（国公立大学志望者）で11名、高2S特進コース（国公立大学志望者）で3名、高2特進コース（難関私立大学志望者）で23名、進学コース（大学進学希望者）で20名がそれぞれ選択している。

2019年9月、〈日本史B〉を担当する西村先生の授業を取材させていただいた。S特進コース・特進コース・進学コースそれぞれの授業にお邪魔させていただいた。教室は、S特進コースは社会科準備室、特進コースは選択授業用教室、進学コースはホームルーム教室をそれぞれ利用していた。

西村先生の〈日本史B〉における1コマ50分間の構成は、おおよそ次のようになっている。



【写真①】〈日本史B〉を担当する西村先生

「生徒には、自分の頭で考えて行動できるように、歴史の問いを通じて自己/他者と対話しながら、さらに主体性に磨きをかけてほしいと願っています。」

- ① 導入の話（約5分）
- ② 解説映像を観る（約10分）
- ③ プリントの課題問題を考え解く（約30分）
- ④ まとめのレクチャー（約5分）

①～④は、クラスおよび単元や内容によって順番や方法が違う。目の前の生徒に合わせた授業方法を常に模索しながら学びの場づくりをしている。

ここでは、S特進コースの3年生の授業と特進コースの2年生の授業をそれぞれ紹介したい。

## 2. 「占領と民主化」について考える授業

第一に、S特進コースの3年生の〈日本史B〉の授業（【写真②】）。本時のテーマは「占領と民主化」。戦後の日本におけるGHQによる諸政策とその目的について理解を深める内容である。



【写真②】教室全体の雰囲気 通常教室の机・椅子とは違い、少人数で会議室のような空間での授業。先生と生徒の距離も近く、丁寧な学びの場がつけられる。

### ①導入の話（約5分）

まずは、『朝日小学生新聞』の「ヘッドネーション」に関わる記事を紹介した（【写真③】）。

杉並区の男子小学生が自由研究で自らの髪の毛を寄付する取り組みをしているというものである。西村先生は、この記事には、「ヘッドネーションを経験した男子中学生たちが「中学校の校則で髪を伸ばしちゃだめと言われた」という内容があり、良いことをしているのに、校則が邪魔をする意味は何か」という疑問を投げかける。そこから、そもそも法律が存在する意味を問いかけて、本時では戦後日本で新たな法律ができた意味を考えていくことを告げた。

【資料1】 配付された授業内容が整理されたプリント(「空欄シート」)。この内容について西村先生は特に説明しない。

現代 戦後①		占領と民主化①		No.1	
<p>連合国軍の日本占領機構 <b>戦後はここから始まる。</b></p> <p>東京：連合国軍最高司令官総司令部 (1. GHQ) 設置 (占領最高機関)</p> <p>最高司令官 2. マッカーサー</p> <p>3. 間接統治方式 (GHQは日本政府を通じて統治) 直接だと暴発</p> <p>4. ポツダム勅令公布 (日本政府はGHQの指令を勅令として発布可能)</p> <p>東京：5. 対日理事会設置 (最高司令官の諮問機関・米英中ソ)</p> <p>ワシントン：6. 極東委員会設置 (占領政策決定機関・11万国)。政策決定⇒アメリカ政府⇒GHQ</p> <p>東久邇宮彦彦 <b>皇族・敗戦処理内閣：「一億総ざんげ」/「国体維持」(天皇中心の秩序維持) 重光は天皇と政府を代表</b></p>					
<p>1945 (1)米軍艦ミズーリ号上で降伏文書署名 <b>全権</b> 外相 1. <b>重光葵</b>・参謀総長 <b>梅津美治郎</b> 大本営代表</p> <p>2. <b>プレスコード</b> (占領軍批判の新聞報道禁止) 発布 歌舞伎 30秒以上刀抜いちぢだめ</p> <p>3)GHQの民主化指令⇒実行不可能 (内務省解体をためらう) ⇒内閣退陣 政治・宗教的自由の制限撤廃ためらう</p>					
<p>幣原喜重郎 <b>戦前の協調外交の実績 外相：吉田茂</b></p> <p>(1)五大改革指令 (マッカーサーが1. <b>幣原喜重郎</b>に口頭で指示)</p> <p>① <b>婦人解放</b> ② <b>労働組合の結成</b> ③ <b>教育の自由主義化</b></p> <p>④秘密警察などの <b>圧制的諸制度の撤廃</b> ⑤ <b>経済の民主化</b></p> <p>2)憲法改正の指示 <b>天皇が統治權もつ、天皇が神聖不可侵</b></p> <p>政府：2. <b>憲法問題調査委員会</b>設置 (委員長：3. <b>松本蒸治</b>國務相) ↓GHQは参考</p> <p>民間：憲法研究会が立憲君主制の「憲法草案要綱」発表、4. <b>高野岩三郎</b>が大統領制の憲法草案発表</p> <p>1945 (3)政治犯釈放、特別高等警察・治安維持法・治安警察法廃止</p> <p>(4)政党復活—民主的の改革 ↓眞實選挙の非推薦議員中心43 ↓273</p> <p>5. <b>日本自由党</b> (6. <b>鳩山一郎</b>・旧政友会系)、7. <b>日本進歩党</b> (町田忠治・旧民政党系)</p> <p>日本協同党 (山本実彦・中間政党)、8. <b>日本社会党</b> (片山哲・旧無産政党)</p> <p>9. <b>日本共産党</b> (徳田球一・合法政党)、↑戦前の合法的社会主義政党</p> <p>(5)新選挙法公布 (10. <b>婦人参政権</b>・男女20歳以上=全人口の11. <b>50.4%</b>)</p> <p>(6)GHQの12. <b>国家と神道の分離指令</b> (国家と神道の分離)</p>					
<p>1946 (1)13. <b>天皇の人間宣言</b> (天皇の神格否定)「天皇ヲ以テ現御神」とすることを否定</p> <p>2)GHQの14. <b>公職追放指令</b> (軍国主義者21万人追放) 要職に就くことを禁止</p> <p>3)政府の憲法改正草案要綱 (GHQ案を基礎)発表</p> <p>4)戦後初の総選挙</p> <p>第1党：5. <b>日本自由党</b> (141人)・第2党：7. <b>日本進歩党</b> (94人) ⇒結果、幣原総理職 婦人代議士15 39人当選</p>					
<p>General Head Quarters,the Supreme Commander for the Allied Powers</p> <p>日本は米軍向けの慰安施設建設</p> <p>日本兵は徹底抗戦するだろうと考え、武装解除はうまくいかないと考えた</p> <p>ソ連は司令官2人&amp;分割統治を要求 北海道がソ連支配となる案出すが蒋介石の反対</p> <p>皇族内閣の指示により武装解除が速やかにいき、日本政府を通じた間接統治にした</p> <p>唯一ソ連が全千島の領有を宣言して北方領土を勝手に占領したため、軍事衝突が起きている。</p> <p>引き揚げ 戦死旗幟で奥さんが再婚したところに元旦那もどってきた...</p> <p>憲法草案要綱：これをGHQが分析し案をつくり「戦争放棄」を加えた GHQに押し付けではないという説 (家永三郎)</p> <p>共産党徳田 3000人の同志と再建</p> <p>婦人参増やす→天皇制打倒を主張しない女性を増やしたい</p> <p>なんで争儀人間なんているのか 著：『英霊の聲』「なごすめるぎは人となりたまひし」</p> <p>天皇はマッカーサーに「すべての責任は私にある。自分はどうなってもかまわないので国民の生活を守ってほしい」</p> <p>マッカーサーは感動し天皇制を残したと伝えられる</p> <p>人間：「天皇と国民の間は、信頼と敬愛でつながる。神話と伝説に基づき天皇を神として日本民族は優秀だから世界を征服するという考え方は間違っている」と宣言</p> <p>公職追放で小学校の校長も追放</p>					

## ②解説映像を観る (約10分)

次に、NHKの番組である高校講座日本史(2018年度版)の「占領と国内政策」の前半部分の映像を観る。配付されたプリントの内容(【資料1】)は、この映像によって当時の映像も交えながらおおよそ説明されたことになる。

## ③プリントの課題問題を考え解く (約30分)



【写真③】『朝日小学生新聞』の記事をもとに導入の話をする西村先生。生徒たちは真剣に聴き入る。

その次に、20個の課題(【資料2】)に生徒たちは取り組む。個人で考えたり、まわりの人と相談しながら考えたり、それぞれが自由に課題に向き合う。配付されたプリント(【資料1】)を参考に考えたり、教科書や副教材を読みながら考えたり、タブレットでのweb検索しながら考えたりするなど、と生徒たちは自分たちで情報を収集・分析してい

た。また、生徒が先生に個別に質問したり、先生が生徒に声をかけて介入したりすることもあり、終始和やかな雰囲気の中で授業が進む。

なお、今回取材したときは、30分では足りず、2コマ連続で日本史の授業であったため、その次の時間まで継続して取り組んでいた。

## ④まとめのレクチャー (約3分)

最後に、次回以降の内容について少し説明した後に、「今日、自分たちが考えた課題に対する答えの内容に不安がある場合は、個別に対応しますよ」ということを告げて、授業は終了した。つまり、課題問題についても特に解説はしないのである。

## 3. 「14歳の源頼朝が生かされた理由」について考える授業

第二に、特進コースの2年生の〈日本史B〉の授業。本時のテーマは「平氏政権」。前時に概要とプリントの課題問題を考え解くことは終えており、本時ではその派生的な続きの課題として

【資料2】20個の課題（「課題シート」）。「～答えなさい」「～述べなさい」という発問・問いがまんべんなく配置されている。

<b>11-1-1 占領と民主化</b> 月 日 ( ) 氏名	課題15 1947年に制定された、義務教育を規定した法律とは何か、答えなさい。
目標：GHQによる諸政策とその目的について、説明できる。	課題16 なぜ財閥が解体されたのか、述べなさい。
課題1 なぜGHQは間接統治の方式をとったのか、述べなさい。	課題17 1947年に、カルテルなどを禁じた法律が制定されたが、この法律とは何か、答えなさい。
課題2 ワシントンに置かれた占領政策決定機関とは何か、答えなさい。	課題18 なぜ農地改革が実施されたのか、述べなさい。
課題3 五大改革指令をマッカーサーが伝えた時の日本の首相とは誰か、答えなさい。	課題19 二度にわたる農地改革の結果について、述べなさい。
課題4 憲法改正を指示した時の、憲法問題調査委員会の委員長とは誰か、答えなさい。	課題20 傾斜生産方式とは何か、述べなさい。
課題5 戦後、治安警察法や治安維持法はどのように規定されたのか、述べなさい。	
課題6 1945年に制定された新選挙法の選挙権について、述べなさい。	
課題7 戦後初の選挙で当選した婦人代議士は何名か、答えなさい。	
課題8 極東国際軍事裁判で死刑となった、首相経験のある文官とは誰か、答えなさい。	
課題9 日本国憲法の三大原則とは何か、答えなさい。	
課題10 戦後初めて成立した社会党を中心とする連立内閣を組閣した首相とは誰か、答えなさい。	
課題11 昭和電工事件で退陣に追い込まれた内閣とは誰か、答えなさい。	
課題12 GHQが労働組合の結成を認めた理由について、述べなさい。	
課題13 1947年に工場法に代わって制定された法律とは何か、答えなさい。	
課題14 なぜ教育の自由主義化が実施されたのか、述べなさい。	



「なぜ、源頼朝（14歳）は生かされたのだろうか？」という問いについて考える授業が展開された。

なお、この問いについては、西村先生の授業のなかでは「追Q（おいきゅう）」と呼ばれ、授業内容をさらに追究する問いとして時間を意図的に設けている。

今回の授業では、平治の乱で敗北した源頼朝が伊豆に配流となった理由について、これまで学んできた内容と3つの学説を基に、生徒たちが仮説を立てるというものである。したがって、通常の1コマの展開とは違う流れで授業が進められた。本時の授業の流れは、おおよそ次のようになっていた。

- ① 導入の話（約10分）
- ② 問いについて個人で考える（約10分）
- ③ 問いについてグループで考える（約15分）
- ④ 各グループからの発表（約5分）
- ⑤ 問いについて個人で考える（約5分）
- ⑥ まとめのレクチャー（約5分）

### ①導入の話（約10分）

まず、前時で学んだことを振り返りつつ、本時で考えていくことを提示する。

本時では、「なぜ、源頼朝（14歳）は生かされたのだろうか？」という問いに対して、次の3つの学説から、1つ有力だと思うものを選び、その理由を歴史的に考えることを生徒に告げた。

- A 説： 平清盛の継母が、源頼朝の助命を嘆願した
- B 説： 貴族に死刑に対する反発があった
- C 説： 平清盛は伊豆を京都に戻れない遠い地と思っていた

### ②問いについて個人で考える（約10分）

次に、問いについて有力だと思う学説を1つ選び、その理由を個人で考える。配付されているプリント、教科書、副教材、タブレットでのweb検索などで生徒たちは調べながら作業を進めていく。西村先生は、ぐるぐる教室を回りながら、生徒の様子を見つつ、ときに生徒に声をかけて学びを促していく（【写真④】）。

### ③問いについてグループで考える（約15分）

その次に、A・B・C説ごとにグループに分かれて、各自が考えた理由を共有してお互いにメモをとる。

さらに、たくさんあげられた理由の中から、最も有力な理由と考えられるものをグループで1つ選ぶ。なお、A説に11名、B説に5名、C説に9名がそれぞれ集まった。

#### ④各グループからの発表(約5分)

そして、各グループが考えた学説を推す理由について、代表者が口頭で全体に発表する(【写真⑤】)。前時までに学んだ関東においても知行国制度が推進していることなど平氏の地盤が強固なので頼朝の監視は可能であったこと、さらに、死生観やジェンダーの視点や消去法で説明するなど、説明の方法は様々であった。

#### ⑤問いについて個人で考える(約5分)

最後に、生徒は改めて個人としての問いに対する考えを配付プリントに整理する。記入したものは、西村先生が回収した。

#### ⑥まとめのレクチャー(約5分)

最後の最後に次回以降、鎌倉時代を学んだ上で、今回の問いとは逆に「もし、源頼朝(14歳)を伊豆に流さず殺していたら、鎌倉時代はどうなっていたか?」という問いに変えて考えてもらうことを予告した。

## 4. 授業の特徴

本授業の特徴として、i) 適度な動きがある、ii) 先生が生徒を個別に見続けている、iii) スパイスの効いた内容が適度に盛り込まれる、の3点があげられる。

### i) 適度な動きがある

選択授業ということもあり、ホームルーム教室から特別教室への移動という動きから始まる。先生が生徒たちの待つ教室へ移動するのではなく、生徒たちが先生の待つ教室に移動することで、あらかじめ授業の場を整えておくことが可能となる。

生徒たちは、席が特に指定されておらず自由に座ることができる。また、先生に質問したり、まわりの人同士で聴き合ったりすることも自由にできる。生徒たちにとって自由な空間が、安全・安心な学びの場につながるであろう。



【写真④】西村先生は教室をぐるぐる回りながら生徒に声をかける。生徒は笑顔で対応していた。



【写真⑤】グループを代表して発表する生徒。発表前にまわりに「静かにしよう」と声をかける生徒も。

### ii) 先生が生徒を個別に見続けている

「追Q」は1単元に1度程度で、それ以外の時間は、

- ①導入の話(約5分)、
- ②解説映像を観る(約10分)、
- ③プリントの課題問題を考え解く(約30分)、
- ④まとめのレクチャー(約5分)

という授業構成は、時間幅の多少の違いはあるが、年間を通じてほぼ同じサイクルを繰り返す。

③の課題問題を解く際には、自分たちでとことん考えて知識を整理していくこともできたり、先生のレクチャーが必要なきに聴けたりと、ただのグループワークだけではないところが、生徒たちの信頼を得ているように見えた。先生の全体への指示だけではなく、丁寧に声かけをしたり、活動に対してとにかくほめたりするなど、個別に対応するところも、安全・安心な学びの場につながるであろう。

### iii) スパイスの効いた内容が適度に盛り込まれる

課題問題では、大学入試問題なども組み込まれるこ

ともある。「追Q」は、明確な答えのない「問い」である。これらは、教科書の内容をきちんとおさえていく過程で復習となるとともに、ただ暗記するだけではなく、歴史を学ぶことを通じて考える力を培うことにもつながる。このような学びのスパイス（刺激）となるコンテンツも盛り込まれている。ほとんどの生徒が大学入試を受験するので、その指導やモチベーションにもつながるような工夫が随所になされている。

	問う側	問われる側	機能
発問	答えを知っている	答えを知らない	考えさせるためのトリガー
質問	答えを知らない	答えを知っている	情報を引き出すためのトリガー
問い	答えを知らない	答えを知らない	創造的対話を促すトリガー

## 5. 授業デザインの特徴

〈日本史B〉の1年間の授業デザインの特徴として、「主体性」を育むことを軸にしていることが明確なことである。そのために西村先生は、授業中に、「発問」「質問」「問い」を巧みに使い分けながら、生徒との関わりを続けている。

京華中学・高等学校では、学校内におけるすべての活動において、「組織的行動力」「コミュニケーション力」「課題解決力」が必要であるとしている。西村先生の授業では、上記の3つをさらに15の力に分類したルーブリックを用い、それぞれの力を意識しながら授業が行われている。その筆頭にあげられているのが、組織的行動力の中に位置づいている「主体性」である。主体性とは「物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動する」と定義している。

西村先生の授業中の生徒への指示の際に、必ずといっていいほど「主体性」という言葉が出てくる。授業の目的として主体性を育むことが明確になっており、そのために生徒との関わりを大切にしているのである。主体性と大きく、生徒任せにしてしまいがちではあるが、できるだけ強制力を排除しながらの授業運営を心がけることで、主体性を培うことにつながっているのではなかろうか。

そのために、西村先生は生徒たちに対して、「発問」「質問」「問い」を使い分けているように思えた。これら3つの違いは右表のように考えている※。

※ 安斎勇樹「デザインした「問い」の答えは誰が持っているのか：質問と発問との違い」

[https://note.mu/yuki\\_anzai/n/n392714d791ea?fbclid=IwAR0oc5RMXe4HxeXEgezryjnfipRCLOK014Oy\\_Iq78T3z\\_uoU\\_2RmOZaMmlo](https://note.mu/yuki_anzai/n/n392714d791ea?fbclid=IwAR0oc5RMXe4HxeXEgezryjnfipRCLOK014Oy_Iq78T3z_uoU_2RmOZaMmlo) (2019年10月6日閲覧)

導入の話では、身近な話や最近の話題を例にして、「法律がある理由は何か？」など、「発問」であると同時に、「問い」にもつながるようにしている。

次に、課題問題では、「～に答えなさい」という一問一答的な「発問」とともに、「～を述べなさい」という「質問」であると同時に「質問」にもつながる。

まとめて表現する方法は多様であり自分の意志・判断で行うものでもあり、問う側の先生はその表現方法は知らない状態で行うので、「質問」とも言える。

さらに、「追Q」で示された「なぜ、源頼朝（14歳）は生かされたのだろうか？」は、問う側の先生も問われる側の生徒も答えは知らないで「問い」につながる。「～を述べなさい」という課題の中にも、例えば「なぜ財閥が解体されたのか、述べなさい」という発問を突き詰めていくと、そもそも財閥とはどんな存在で、さらにその歴史的な意義なども考え始めると、このことが自分事化していけば、まさに「問い」につながることもなるだろう。

このような使い分けは、授業構成上だけでなく、課題問題を考え解くワーク中の介入時にも行われている。個々の生徒に声かけをする際にも、教科書や課題に出てくる言葉の意味などを「発問」したり、進捗状況などを「質問」したり、「アメリカにとって日本はどのような市場なのか？」といった「問い」にもつながるようなアプローチをするなど、先生側から答えを押し付けない対応がなされている。

このように、指示・命令ではなく、「発問」「質問」「問い」の形によって問うことにより、「物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動する」ためのトリガーの役割を西村先生が担っているといえよう。

## 6. 新科目「日本史探究」とのつながり

西村先生の〈日本史B〉における授業内での課題における「～述べなさい」という問い方や「追Q」は、次期学習指導要領における「日本史探究」においても（「世界史探究」においても）参考になるのではなからうか。生徒による課題の追究や解決を促して思考力・判断力・表現力を育てようとするのが求められる新指導要領のスタンスともつながる。

しかし、「日本史探究」は、これまでの〈日本史B〉と内容構成にほぼ変化はないが単位数が減るなど、これまでとは違う環境（カリキュラム）となる可能性があり、内容の焦点化・重点化の匙加減がかなり大切となる。西村先生の実践では、網羅的に内容を扱いつつ、レクチャー重視ではなく、課題問題の工夫によって生徒たちが自ら取り組むような仕かけがなされることによって、焦点化・重点化につながっている。そのため、日本史の授業時間内で、すべての単元について余裕をもって扱え終えることができるという。そのため、「追Q」のような時間も設けることができる。このような、正解が必ずしも明確ではない設問も用意されており、生徒による探究にもつながるわけである。

## 7. 授業の「価値」

西村先生は、日本史のような教科での実践だけではなく、「かのや100チャレ」という探究的な学びにつながる取り組みにも積極的に関わっている。

「かのや100チャレ」は、中高生が考える鹿児島県鹿屋市が抱える100の課題チャレンジのことであり、鹿屋市が抱える課題を遠くの首都圏の中高生が課題解決するプロジェクトである。2019年5月に教育再生実行会議が示した第11次提言にある「高校普通科を4つのタイプに」の中の「④地域課題の解決を通じ、体験と実践を伴った探究的な学び」の先進的な事例にもつながる取り組みである。京華中学・高等学校では、中学1年の地理の中でこのプロジェクトに取り組み、教科学習と探究をつなげることに成功している（【写真⑥】）。



【写真⑥】「かのや100チャレ」の様子。

生徒たちが「多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中でも臆することなく物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫・独自性が見える」（主体性のルーブリックの最上位）ようにするために、西村先生は常にファシリテーター（学びを促す存在）として、学びの場づくりに尽力する。西村先生は、生徒の主体性を培うことをマインドとし、個々の生徒に丁寧に向き合うことで、「価値」ある学びの“場づくりスト”として、社会科教育に挑んでいるのではないか。

最後に、ある生徒さんに〈日本史B〉の授業についてインタビューした内容を紹介して終わりたい。「日本史の授業が楽しくできていい。日本史の授業は、ただ先生の説明だけで授業を受けるだけではなく、グループワークなどを通して話し合ったり、自分で考えたりして、理解につながる。先生が出す課題について考えるのが面白く、もっといろいろなことについて考えてみたいとも思わせてくれる」と。教師が、一斉講義ではなく、個々の生徒との対話によって、生徒たちとの信頼関係の構築はもちろんのこと、生徒の学ぶ喜びにもつながる場がここにあるのであろう。

### ◆訪問先データ

京華中学・高等学校（私立・男子校）  
〒112-8612 東京都文京区白山5-6-6  
TEL：03-3946-4451  
HP：http://www.keika.ed.jp/



# 「正解」でなく 「納得解」を得させる 公民科の授業

～人間としての強みを育むために～

高橋 勝也

## ◆著者プロフィール

鹿児島県と東京都で25年間公立中学校・高等学校教員を経験し、現在は名古屋経済大学法学部准教授。NHK高校講座「現代社会」番組講師、総務省主催者教育アドバイザー。

著書に『恋ではなく愛で学ぶ政治と経済』（高橋勝也）、高等学校公民科教科用図書『高等学校 現代社会 一人ひとりが考える自分・社会・世界 新訂版』（清水書院）、中学校社会科公民的分野教科用図書『新編 新しいみんなの公民』（育鵬社）、など。経済教育学会会長、日本証券業協会金融経済教育を推進する研究会委員。

## 著者新刊

『すべての中学生・高校生・大学生に贈る みんなが幸せになる 恋ではなく愛で学ぶ 政治と経済』



## はじめに

新しい学習指導要領が告示されてから久しい。日本全国の教師たちは、これをどのように受け止めたであろうか。「これからの未来を創っていくために、子供たちにどんな力を育てあげたらいいのかな？」と考えたに違いない。子供たちから、「将来、自分が就ける職業は、なくなってしまうのかな？」と問われたとき、「安心していい。心配しなくてもいい。」と堂々とした態度を示していくことが、これからの教師に求められている。何と言っても、毎日の授業でそのような姿勢や態度ででのぞむことが、保護者も含めた国民的不安の解消につながる。なかには、学校教育が「オワコン」（終わってしまったコンテンツ）と評する方々もいるようだが、社会は人と人とのつながりが中心にあっての社会なのだ。これからの公民科授業は、人間としての強みを育む授業が求められている。

本稿では、筆者が現職教員であるときに開発した公民科における授業実践を2つ紹介する。

「公共」の目標に掲げられている よりよい社会の実現を視野に、現代の諸社会を主体的に解決しようとする態度を養う ために開発した授業となっている。現代の社会ではダイバーシティが進み、相反する意見の相克に直面するケースは増えている。まったく意見がかみ合わなくても、人々が協力しあうことの大切さ を自覚させる授業をしなければならない。ある意見ともう一つの意見が、まったく重なり合うことなく、合意形成が不可能となった場合を考えてみよう。両者の意見は完全に異なっているものの、見方・考え方を変えて、お互いの主張についてゆずりあえる観点はないかなど、見つけていくのである。これからの社会では諸課題に対して、全員が満足する正解を導き出すことは、難しくなるのかもしれない。複雑な問題を丁寧に見て、様々な角度から解きほぐして、全員が納得できる納得解を導けるようになる力をつける必要がある。紹介する授業実践では、紙幅の関係上、学習目標などを割愛し、すぐに教室で実践できるようにイメージしやすい流れだけを示していく。

個別に、学習指導要領を参考に 合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を

養ったり、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めたりできる学習目標や評価を設定いただきたい。(下線部は、学習指導要領から引用)

## ケース1 豊かさを分け合う 「経済」を考える

1. **【教師】** 「今日はあるシミュレーションゲームをしながら、経済について考えてみよう！」〔図表1〕を提示。「船旅で漂流してしまいました。このままでは命が危ない。すると目の前に二つの国(島)が現れました。君は生き延びるためにどちらかの国に上陸して、その国の国民になって生きていくしかありません。あなたならどちらの国民になって生きていきますか？」小グループに分け、議論させる。(参考)生徒の反応としては、学年や進学実績が高くなるにつれて、平等ではないスミス王国を選ぶ生徒が増える傾向にある。【5分】
2. (国民の年収に800万の格差がある資本主義社会の)スミス王国を支持する側と(国民の年収に格差がない社会主義社会の)マルクス王国を支持する側に分け、簡易ディベートの形で議論させる。自由に発言できる雰囲気をつくりたい。(参考)司会進行を置かず、お互い面と向かい合って議論させると、活発な雰囲気を醸し出しやすい。【15分】
3. **【教師】** 「どちらの国を選択することが正しいの(正解なの)でしょうか?良いのでしょうか?」  
**【生徒】** 「どちらとも言えない…。」などの悶々とした反応が返ってくることが多い。(参考)正解を導くことの難しさに、多くの生徒が自ら気づく。【3分】
4. **【教師】** 「国全体を見てみよう。どちらの国が豊かと考えられますか。」  
**【生徒】** 「スミス王国である」(合計するとスミス王国が1000万円、マルクス王国が800万円なので、スミス王国の方がより豊かな生活ができると見ることができることに気づく。【2分】
5. **【教師】** 「では、もう一度問います。あなたはどちらの国民になりますか。」小グループに分け、議論させ、発表させても良い。【5分】
6. **【教師】** 「スミス王国について考えてみよう。もし、900万円の年収の人が、100万円の年収の人に400万円を渡すことができたなら、平均年収が500万円になります。」〔図表2〕を提示。

〔図表1〕

スミス王国		マルクス王国	
900万円	半分の国民の年収	400万円	
100万円	半分の国民の年収	400万円	

〔図表2〕

スミス王国		マルクス王国	
900万円	半分の国民の年収	400万円	
100万円	半分の国民の年収	400万円	

400万

➡

「そうするとマルクス王国より豊かな国になり、かつ、よりよい平等な社会にならないでしょうか。」

〈参考〉生徒の反応は、ざわつく感じになることが多い。

**【教師】** 「みんなが年収500万円の国と、みんなが年収400万円の国であるならば、どちらがいいでしょう。」

**【生徒】** 「みんなが年収500万円の国に決まっている。」【5分】

7. **【教師】** 「しかし、スミス王国において900万の年収の人が100万円の年収の人に400万を行き渡らせるようにすることはできるのでしょうか。」

**【生徒】** 「そんなことをしたら、900万の年収の人がやる気をなくしてしまう。」などのいろいろな反応が出てくる。

**【教師】** 「資本主義社会で完全に平等にすることは難しそうですね。でも、格差社会といわれる社会問題がクローズアップされています。ある程度豊かさを分け合うことはできませんかね。」小グループに分かれて議論させ、発表させても良い。

**【教師】** 「現代の社会において豊かさを分け合っているようなことはないでしょうか。思いついたら、発表してみてください。」

〈参考〉中学校社会科公民的分野での既習事項として、累進課税制度や生活保護をはじめとする社会保障制度に気付く生徒がいる。【5分】

8. まとめとして、「経世済民」について説明する。  
**【教師】** 「中国の古語であり、『経済』の語源とも言われている。経世済民とは、世の中を治め、民を救うとの意味合いがある。社会にはさまざまな考えがあり、対立することもあるが、それ



【写真①】 国立マンション訴訟に関するマンション



【写真②】 公開空地（オープンスペース）



【写真③】 復元された東京駅

らを治め、お互いに救い合い、みんなが幸せになっていけるといい。そのために累進課税や社会保障の制度は存在しているのではないかな。どうしていけば世の中を治め、民を救うことができるか、これからの授業を通じて考えながら学んでいこうね！」

〈参考〉多くの生徒が納得し（納得解を得て）、格差社会における課題を自らとらえ、探究する方向へ導くことを可能とする。【5分】+振り返り【5分】

## ケース2 高層マンション建設の問題を法と経済で考える

1. 国立マンション訴訟に関するマンションを含む街並み〔写真①〕を提示して、気付いたことを発表させる。〈参考〉日照権侵害などと発言する生徒はいるが、景観権を侵害する問題にはまず、気付けない。【5分】
2. 国立マンション訴訟の東京地裁判決（2002年12月18日 景観保護を求める住民側勝訴）と東京高裁判決（2004年10月27日 マンション建設を進める開発業者側勝訴）の新聞記事を印刷、配布して、読ませる。【5分】  
〈参考〉東京地裁判決で開発業者が敗訴し、マンション上部の部分撤去命令、つまり、完成したマンションの上層部を切り離して撤去せよという判決が出されたことに、生徒たちはどよめきを起こすほど、驚く。
3. 【教師】 「なぜ、住民側と開発業者側で対立が起きたのか、お互いの幸福について、確認しよう。住民側が求める幸福には、豊かな環境と景観保護がありそうですね。開発業者側が求める幸福には、企業としての利益（マイホーム建設という人々の幸せ）がありそうですね。」小グループに分け議論させながら、住民側と開発業者側そ

れぞれの主張を整理する。

【教師】 「どちらの主張が正しいの（正解なの）でしょうか？」

【生徒】 「どちらとも言えない…」など反応が返ってくる。〈参考〉正解を導くことの難しさに、多くの生徒が自ら気づく。【5分】

4. 【教師】 「どのようなルールがあったら対立は生じなかったでしょうか。」小グループに分かれて議論させ、発表させる。対立をスムーズに解決できたかという法からの観点で考察させる。その際、どのようにすることが社会にとって正しいこと（正義）なのか、考察する段階で一方の主張だけを取り上げていないか（公正）などに注目させながら、考察させる。【10分】
5. 公開空地（オープンスペース）〔写真②〕を提示し、気付いたことを発表させる。〈参考〉都市部では見られるが、地方では見られないことが多いので、生徒の実態を考慮して、発言させると良い。  
建築基準法（総合設計制度）の制定に基づき、公開空地を設けることができるようになったことを解説する。公開空地により、周辺環境の向上が住民側に利益をもたらすほかに、マンションの高さ制限の緩和が開発業者側にも利益をもたらすため、両者に利益（ダブル・ウィン）の関係を生み出すことを理解させる。効率的な経済のしくみを構築することの重要性に気付かせる。経済の効率性をもたらすより良く形成する社会を追究させる。【5分】
6. 建築100周年事業で復元された東京駅〔写真③〕を提示する。

【教師】 「復元された東京駅の建設費用500億円は、どのように捻出されたのか考えてみよう。」加えて、復元された東京駅と周辺の高層ビル〔写真④〕を提示する。さらに、建設費用500億円

の検出方法を検討する。小グループに分かれて議論させ、発表させる。【5分】〈参考〉「寄付によって集めた。」などの意見が多い。

7. 空中権に関する写真〔写真⑤〕を提示し、気づいたことを発表させる。空中権が、地表を離れて地上の空間を利用する権利であること。3階建ての東京駅における有り余る空中権を高層ビル開発業者に販売することで費用を捻出したこと。JR東日本、高層ビル開発業者だけでなく、高額なレント料を支払ってでも高層ビルに入居する企業さえも利益を獲得することを理解させる。【5分】

8. 利益のトリプル（JR東日本、高層ビル開発業者、ビル内の企業）・ウインの関係を生み出すことで、効率的な経済のしくみが構築されていくことについて理解させる。経済の効率性をもたらすより良く形成する社会を重要性に気付かせる。

【教師】 「ある意見（街の美しい景観を保て！）ともう一つの意見（家族が幸せになるマイホームが重なるマンションを建設せよ！）は、まったく重なり合うことなく、合意形成が不可能と感じてしまうことがあるかもね。しかし、公開空地や空中権というシステムを組み入れていくことで多くの人が納得して、みんなの幸福をたくさん増やすことができるはずだよ！」

〈参考〉多くの生徒が納得し（納得解を得て）、都市における課題を自らとらえ、探究する方向へ導くことを可能とする。【5分】+振り返り【5分】



【写真④】上 東京駅と周辺の高層ビル



【写真⑤】右 空中権に関する写真

## おわりに

筆者は25年間、公立中学校・高等学校で社会科・公民科教員として授業を行い続けてきた。困難校では、授業すら成立しなかった。しかし、教員の創意工夫ある授業には、どんな生徒でも興味・関心を抱くものである。いつの日か、知識注入型授業の実践を捨てた。それから編み出されたものが、ここで紹介した2つの授業実践である。「社会」科の授業なのだから、社会を考えさせたい。子どもたちに未来社会を創ってもらいたい。「これからの社会には君の力が必要だ！」と毎授業で、言い放ってきた。

ありとあらゆる人間社会では、まったく意見がかみ合わないことがある。でも、みんなが幸せになったほうが良いと、子どもたちは感じているし、わかっている。その糸口を指し示してあげれば、間違いなく子どもたちは自ら学んでいくようになる。

### 新刊紹介

## 『地理から学ぼう ちばの魅力 おもしろ半島ちば 第2巻』

- ・千葉地理学会編集
- ・株式会社千葉日報社発行
- ・予定価格 1200円+税

第1章 千葉県の特色や魅力の再発見

第2章 県都千葉市の魅力

第3章 京葉・東葛地域の魅力

第4章 北総利根川と印旛香取地域の魅力

第5章 銚子と九十九里・夷隅地域の魅力

第6章 南房総と内房地域の魅力

自然や歴史、産業や社会、生活や民俗などを紹介。

『千葉日報』で毎週水曜日に連載している「おもしろ半島—ちばの地理再発見—」の紙面が書籍化されます。2013年に始まり275回（9月末）を数えました。第2巻には、121回めから240回までが収録されます。この連載は千葉地理学会の会員が執筆しています。読者に知ってほしい地元の地理に関する話題を、中学生にも読んでもらえるように、やさしく記述しました。

- ・おもしろ地名びっくり地名 ・イロハニの地名
- ・千葉のご当地キャラクター ・多彩な素掘りのトンネル
- ・不思議なバッテン など、120のおもしろトピックス。

国際的にも大きな話題となった「チバニアン」、この連載がきっかけとなり多くの観光客が訪れている「濃溝の滝」など話題の内容が満載です！！